



23期 KIMI ORR (旧姓 金村 紀美子) 様

北辰会事務局 事務局長 前田 直人



- ①遥かアメリカからメール有難うございました。
北辰会事務局を担当している前田直人と申します。
- ②私は25期生ですが3年遅れていますのであなたがストレートだったら同じ年齢です。
- ③近年、あなたの在学中、生徒自治会会長をなさった畑地豊さんが23期幹事さんとして23期を纏めて頂いています。元気ですよ。
- ④この原稿は「北辰HP」/北辰会の広場/に掲載させて下さい。校正いたします。校正は畑地さんをお願いする予定です。
- ⑤「北辰HP」/北辰会の広場/では校歌も聞けます。最近は23期生の記事が多く出ています。堂本さんの記事もあります。
- ⑥「北辰HP」/北辰会の広場/では「北辰会報」も読むことができます。読んでください。北辰会はわたし達北野高校定時制生徒の「ふるさと、オアシス」の役割を果たしています。

23期 KIMI ORR (旧姓 金村 紀美子) 様

23期 常任幹事 畑地 豊



ようこそ投稿をお寄せ下さいました。大歓迎申し上げますとともに、これまで「北辰会」の存在や活動内容などについて、殆ど認識が無かったということをお聞きしました。たとえ海外にお暮らしと言えども、同窓会の活動状況がしっかりと伝達されていなかったことについては、私どもこれを運営、推進させて頂いている担当者としては、大いに反省し今後の対応について如何に改善を図るかということについて研究しなければなりません。とりわけ23期をお預かりしている弊職としましては、責任の重さを痛感しています。この誌面をお借りして深くお詫び申し上げます。

尚、23期幹事は私を含め合計3名でお世話させて頂いています。これからもあなたの親しい友人である「堂本さん」同様によろしく願い申し上げます。

幹事 西阪 一裕
幹事 三橋 永一

親友の堂本さんからメッセージを頂きました。

23期 堂本敦子



北辰会への金村紀美子(KIMI ORR)さんからの投稿の知らせには、コロナ以上にびっくりです。

彼女は、とにかく気持ちがおおらか、努力家、何事にも挑戦的・行動的。

これらの事から必然的に海外での人生に入っていたのかなぁ…

アメリカ人の御主人と海外転勤を共にし、赴任先でも先生を、時には生徒になって勉学を。

今年だったと思いますが、ご主人の退職で、アメリカに帰り新居でゆっくりされてるかなぁ？ それとも、また何かを？

KIMI ORR (旧姓 金村)さんの
ご自宅 (サウスキャロライナ州チャールストン) /周辺の風景



ここは私達住人専用の湖です(only people who live in Four Seasons). 私達の家の中は湖に囲まれ、kayak (カイヤック船/カヌーの1種) もここで興じることが出来ます。ところがこの湖にはアリゲーターがいます。ある人は怖がるが、でも彼らを傷つけない限り、我々を襲わないという。



23期 KIMI ORR (旧姓 金村 紀美子)

はるけき流れ 大淀の しじまの夜と更け行けば (編者注：2番)
人は家路に 向うとき いさみてつどう ふみの窓… (編者注：1番)

卒業して何十年という年月が過ぎると、1番と2番がごっちゃになっていることも知らず。ふとしたことで北辰会の広場を見るチャンスに恵まれそれを知りました。そして4年ごとに北辰会の同窓会があることを聞きまして、大変驚きました。

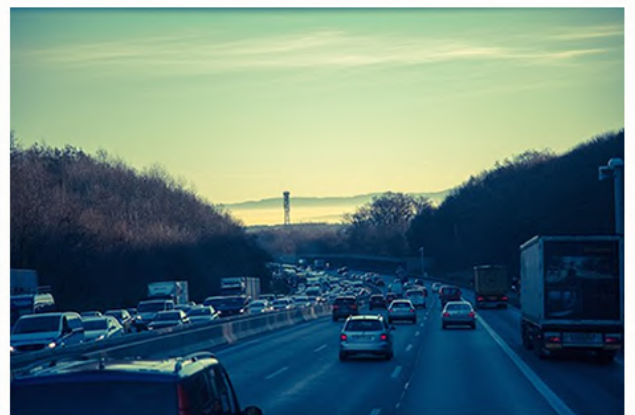
申し遅れました。はじめまして、23期生のKIMI ORR(旧姓金村)と申します。どなたも知りませんのでこのようなご挨拶を申し上げます。

遠くに在りて思うこと

私はアメリカに来て40年にもなります。その間、韓国でも何年か住み、また、ドイツでも10年ほど住んだことがあります。日本には両親が生存の頃は毎年帰っていましたが、両親が逝ってしまった後はそういうこともなくなりました。外国に住んでいますといつも望郷の念に駆られ、思い出すのは日本のことばかりです。日本のニュースはアメリカのテレビから見るくらいで。まして流行歌など聞くチャンスは皆無です。

出てくる歌は今頃誰も歌わないような古い歌ばかり……。無意識に口ずさんでいるのは“会いたさ見たさに……。”なんてたぶん……。あの時もうすでに懐かしのメロディーで歌われたのを覚えています……。考えてみましたら私、歌謡曲もあまり知らないようです。40年前に持ってきた日本のカルチャーをいまだ更新することなくそのまま抱いていることに後程大変“恥”をかくことになりました。童謡なんかもよく歌いますね。仕事の帰り道、日本にいる友達や家族のことを思いながら、♪ウサギ追いし……♪なんて口ずさみながら、Highwayを走っていましたが、突然、涙がこみ上げてきまして、大阪が恋しくて泣きました。

運転しているのに前が見えなくなって、往生したことがありました。特にドイツ人はHighwayではすごいスピードを出して走るの。また最近は何故か気が付けば♪仰げば尊し……♪なんて口ずさんでいるんですよ。卒業式の際は必ずこの歌をうたいましたね。



友人や先生方との別れを惜しんで涙したものでしたが……。この年になって “別れ” と聞くと何か “ギクッと” したものを感ずるのですが……。

考えてみましたら私が学校を卒業して以来、同窓会などに行ったことが無いんですよ！アメリカに住んで一番羨ましいと思ったことはアメリカの高校卒業生には5年ごとにReunion（再会、同窓懇親会）といわれる同窓会があります。最初このことを知った時、なんてすばらしいアイデアなのだろうと感動しました。日本にもこのような同窓会があればどんなに素晴らしいだろうと親しかった友人の顔を思い浮かべながら無念に思っていました。

里帰りでの思い出/十三「富かつ」店

今から4年ほど前だっただろうか。高校時代とても仲良しだった友達を探そうと心に決め、日本に着いた明るる日、朝早く十三に向かった。十三の商店街のちょっと入ったところに“富かつ”というとんかつ屋さんがあった。あの頃楠田訓子さんのご両親が経営されていた。ある時学校からの帰り路、楠田さんが私をその“富かつ”に連れて行って下さったんです。そこでお茶づけをごちそうになったのを覚えている。お茶づけなのにエビの天ぷらが入っていた。わさびも入れるなんて知らなかった。

三国から十三に行く途中も、あれは50年以上も前のことだからいまだにあの店があるわけないのにといいながらも……。またあったとしてもこんな朝早く開いているわけがないのに。でもとにかく“富かつ”の店がそこにあるかどうか知りたかった。



もし“富かつ”がなければ絶体絶命！もう誰にも連絡できない！本当に緊張する思いでした。十三駅を降りて見慣れた広い信号を渡ったところが私の目的地の商店街であった。その商店街を注意深く歩きながら、ほとんどの店はもう開けられていた。多少変わった店はあっただろうが、私の知っているずいぶん前の商店街とあまり変わっていないように思えた。

ここでもない、あそこでもない、歩いている方向の右側に一つ、一つ路地に出くわすたびにそんな思いで……。ところが突然歩いている方向の右側に帽子屋がみえた。そうだあの頃もあの帽子屋はあった。ここだ！躊躇することなく、その帽子屋さんに飛び込んだ。

「この路地の奥に“富かつ” 言うとなかつ屋さんがあったように思うんですけど。」

「ああ、ありますよ。息子さんが引き継いでやっておられますよ。」若い方だった。

じゃ、この方も帽子屋を引き継いでやっておられるのだ……。私の問いに快く答えてくださった。お礼を言ってそこを出たら、目の前に“富かつ”と書いてあるほこりっぽい赤い提灯が見えた。その明るく日の夕方開いている頃に“富かつ”にまたやってきた。中に入ってみるとまだ時間の早いせいか、お客様はいなかった。私が自己紹介をしたら、

「ああ、金村さん！！ 訓ちゃんからアメリカに行かれたとよく聞いてます。」 私がこの弟さんにあったのは彼が中学生の時でした。頭丸坊主でとても可愛かった。でも彼ももう70歳に近い。昔の面影は全くなかった！



同窓生との再会

その後2、3日して私たち仲良しの楠田さんと堂本（旧姓柿本）さんと阪神前で会うことができました。二人ともしっかりと高校時代の面影を持っておられた。それどころか顔が少しも年齢を感じさせないのに驚いた。35年ぶりではなかったかなと思います。堂本さんはいまだに現役でコンピューターを教えておられる。あっぱれだとおもいます！その時に堂本さんから北野高校定時制で4年ごとに同窓会が行われていることを聞きました。また23期生の同窓会は理工系のクラスだけで行われていると聞きまして、ちょっと残念に思いました。私は文化系のクラスでしたのでね……。行っても知らない人ばかりなのにと地団駄踏んだんですけど……。でも堂本さんがいつも誘って下さるんですよ。

去年の5月フロリダで主人の50周年のREUNION（再会、同窓懇親会）がありました。同級生800人中、200人の参加者。ご夫婦で来ておられる方もたくさんいました。私も初めて参加しました。海辺のそばで、ダンスをしたり、ホテルの海辺のオープンバーでお互いにワインを交わしたり、楽しいひとときでした。



北辰精神は世界を駆ける!



ご本人 (2019年/レストランにて)

アメリカのレストランでは
出て来るボリュームは、結構
多いのです。余れば持ち帰りも
出来ますよ!

北辰会のウェブサイトも最近知ったわけで、
むさぼるように拝見しました。青春時代って
若い世代の人たちだけかと思っていたらまだ
70過ぎても夢と希望に燃え、着々と未知の
世界に挑戦しておられることに感動を覚えま
した。やはり定時制高校を出ている方はやる
ことにすべてガッツがある! 考えてみまし
たら中学校を出たときからもう一人立ちをし
たんですね。この精神が私の人生にひたすら
影響を与えてくれました。知った方はいない
のですが、人生まさにまだまだ青春を謳歌
されている方々にいつの日かお会いでき
る日を夢見ながら今日も新たな気持ちで頑
張って行こうと思います。今、大変不安な時、
北辰会の皆様どうかコロナウイルスに感染
されぬよう、ご自愛くださいませ。

校正 小河原 京子 (26期)
兼田 吉治 (26期)
畑地 豊 (23期)

左から2人目が筆者



写真: 私がドイツに移るということで、アトランタの日本領事館の総領事が
私のクラスを訪問してくださいました。(2015年)

《 在学中のクラス記念写真 》

前から2列目
左から4番目



前から3列目
の1番右側



大阪府立北野高等学校/懐かしの昭和校舎



PHOTOS



シンボルツリーは立派な“Palm tree”

ご自宅（サウスキャロライナ州チャールストン）

私の区域は“Four Seasons”といいます。“55+”＝55歳以上でないと入居出来ないのです。ほとんどがリタイアしている人が住んでいるわけなんですが、、、もちろんここに移っても現役で仕事をされている人はいる。ここに住む人たちの目的は“仲間”を求めている。ゴルフ、や麻雀友達、いろいろな活動が倶楽部ハウスで計画、企画される。コンサートやクリスマスパーティなど、全部ここで行われる。

家の前のポーチではときどき近所の人たちとワイン飲んでだべる。みんな気楽に声をかける。私はこのフレンドリーな雰囲気と、自然の宝庫に囲まれた環境をととても気に入っています。



観光用馬車（歴史的な街では有名）

この町はアメリカ建国史上とても重要な歴史を通り抜けて来ました。往時を偲ばせる歴史的建造物や街並みなどを、馬車で巡ることが出来ます。



住まいのある住宅街

「5マイル（約8km）ほどの延々と続く道のり、整然と分けられた土地に家が軒並み建っている。自動車道路と平行に延々と続く松並木の小道。そこはこの住民の散策の場であり、ジョギングしたり、サイクリング、またゴルフカーであちこち移動することにも使われている。